

徳島子どもと教育

徳島県教職員の会
〒771-0017徳島市川内町鶴島115
黄金ビル 徳島労連事務所内
TEL 088-665-6644
FAX 088-665-2117
携帯 090-2891-5189
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp
2016年7月4日 No.208

反響！「臨時教員アンケート結果」

教職員の会が実施した「臨時教員アンケート」が、6月8日の徳島新聞の社会面で大きく取り上げられました。記者は、特にハラスメントや退職強要などが前回に比べて急増していることに注目し、記事をまとめています。

この記事は、教職員の会が、臨時教員の要求実現活動に真剣に取り組んでいることを、県内に広く知らせるものとなりました。これからも、より多くの臨時教員といっしょに、運動を発展させていきたいと思えます。

アンケート結果は、臨時教員の思いや置かれた状況が読み取れるものとなっています。会員のみなさんも、一度、教職員の会のホームページでご覧ください。（機

関紙タイトルの上のURLを参照して下さい。）

月日
2016年(平成28年)6月8日 水曜日

徳島県内の公立小中高校・特別支援学校で、セクハラやパワハラ被害に遭ったり退職を強要されたりしたとする臨時教員が急増していることが、教職員らでつくる「子どもと教育・くらしを守る徳島県教職員の会」の2015年度調査で明らかになった。

県内臨時教員
ハラスメント被害倍増

調査は臨時教員約千人に行い、183人が回答した。臨時教員として経験したことを問う設問(複数回答可)では、「セクハラ・パワハラ」が23人

で、13年度の12人から倍増した。「病休・産休を取ろうとしたら退職を強要された」は13人(13年度3人)、「任期が残っているのに退職願を書かされた」は4人(同1人)と、それぞれ4倍に増えた。

臨時教員をして感じることは「将来への不安」が14人で最も多く、「経済的に苦しい」が62人、「結婚のためのらい」も54人いた。正教員と同じように担任や部活の顧問をこなしながら、賃金や待遇の格差に不安を抱えている現状が浮き彫りになっている。

同会で臨時教員問題を担当する井内哲也世話人は、ハラスメントを受けたとの回答が急増した背景として「ハラスメントに対する臨時教員の意識が高まっていることが一因だろう」と分析しており、同会内に相談窓口を開設することを検討している。詳しいアンケート結果は同会ホームページに掲載している。(佐藤亮)

2016年6月8日 徳島新聞

教員団体調査 13年度12人→15年度23人

臨時教員調査への回答(抜粋)

- ・免許外の教科を受け持った 46人
- ・長期間仕事がなく、生活に困った 33人
- ・セクハラ・パワハラを受けた 23人
- ・事前に労働条件の説明がなかった 22人
- ・研修を臨時だからと断られた 16人
- ・不本意な仕事だったが、断れなかった 15人
- ・病休・産休を取ろうとしたら退職を強要された 13人
- ・任期が残っているのに退職願を書かされた 4人

退職強要は4倍に

第47回全国臨時教職員問題学習交流集会inみえ 語ろう、つながろう、拓こう未来を！～正規が当たり前の社会へ～

＜主催＞ ・臨時教職員制度の改善を求める全国連絡会（全臨教）
・「第47回全国臨時教職員問題学習交流集会inみえ」実行委員会
(大会要項抜粋)

1. 目的

- ①臨時教職員の要求や悩みを語り合い、集会での学びと交流を力にして連帯感を深め、臨時教職員運動のさらなる前進をめざします。
- ②子どもたちが人間らしく育つ学校、それを支える教職員と保護者が力を合わせて作る学校をめざして、学校・教育・社会のあり方を語り合います。
- ③日本国憲法の理念が真に実現する社会をめざし、「正規で働くことが当たり前」という雇用のルール確立のために世論を広げます。
- ④臨時教職員制度の問題点を明確にするとともに、身分保障や労働条件の改善など、全国の取り組み・闘いを学び合い、運動の方向性を明らかにします。など

2. 日時：

2016年 8月12日(金) 13:00 ～ 14日(日) 12:00

3. 場所： 四日市市勤労者・市民交流センター（三重県四日市市日永1丁目2-25）

4. 日程 12日 13:00～16:30 開会集会

オープニング（実行委員による合唱） 実行委員会挨拶 基調報告（全国連絡会） 各県報告（岐阜、愛知、群馬） 三重臨教の歴史と『なべちゃんのにんぎょう日記』

19:00～21:00 交流のタベ

- ①臨時教職員制度入門 ②うたごえサークル ③交流ゲーム入門 ④非常勤あつまれ！
- ⑤臨教の歴史を紡ぐつどい ⑥四日市あすなろう鉄道の旅（費用：550円当日徴収）
- ⑦公害学習の変遷に学びつつ、どのように実践するか ⑧原発をとめた町、芦浜の運動に学ぶ

13日 9:30～16:00 分科会 全国各地のとりくみやさまざまな思いを交流しよう！

第1 教員採用試験制度の改善と臨時教職員の正規採用化

第2 臨時教職員の労働条件改善と任用保障の取り組み

①労働条件改善 ②任用保障

第3 臨時教職員の仲間づくりと要求実現

①サークル活動 ②教職員組合・市民団体の活動

第4 私学の臨時教員問題（休会） 第5 臨時教職員の生き方と教育実践

18:00～20:30 大交流会 ＜会場＞四日市都ホテル

14日 10:00～12:00 閉会集会

6. 参加費用

○全日程参加費（集会参加費、2日目昼食代、大交流会参加費）11,500円

＊徳島県の臨時教員には教職員の会から補助金が出ます。

7. 申し込み締め切り 1次締切：7月10日（日） 最終締切：7月29日（金）

＊徳島県の参加希望者は、

井内哲也（電話090-6281-3705）まで

7. 申し込み締め切り 1次締切：7月10日（日） 最終締切：7月29日（金）

＊徳島県の参加希望者は、井内哲也（電話09062813705）まで

徳島県母親大会開かれる

6月5日、第56回徳島県母親大会が開かれました。300人を超える参加者で、「生命をうみだす母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます」のスローガンのもと、さまざまな問題別の分科会と、全体会が行われました。

教職員の会は、「ネットゲームについて考えよう」の分科会を担当しました。ネットゲーム依存症の怖さをあらためて認識するとともに、ゲームよりも楽しい親子のふれあいや友達関係づくりなどの大切さについて話し合いました。

他に「18歳選挙権で未来を拓く」「学童期の発達障害の理解に向けて」などの分科会が行われました。午後から、うたごえで全体のオープニング。実行委員長の挨拶では、沖縄の新基地建設と女性遺体遺棄事件などを怒りを込めて批判し、参議院選挙での野党共闘の意義なども訴えられました。記念講演は、慶應義塾大学名誉教授の小林節さんによる「未来をつくる私たちの選択～戦争しない国であり続けるために～」でした。安保法制がなぜ戦争法なのかということを、憲法九条や国際法と照らし合わせて分かりやすく話されました。安倍政権の危険な憲法無視の姿勢を、絶対に許してはいけないと思いました。大会終了後、徳島駅まで「平和を守ろう」「暴走とめよう」などコールしながら、パレードしました。(O)

分科会報告「インターネット・ネットゲームについて考えよう」

報告者の藤田進さんは冒頭「私はガラケーしか持っておらず、インターネットやゲームに詳しいわけでないが、本などで調べたことを報告する。また、これを広めてほしい」と述べました。

以下、報告の中で印象的だった内容を紹介します。

●ゲームを7～8時間夜遅くまで行っている中学生3555人を対象に調べた。慎重さの欠如、爆発性、他動抑制欠如、気分易変性、注意散漫、無気力・無関心などの傾向が見られた。長時間ゲームをすることが高い攻撃性や敵意、暴力行為と関係がある。暴力シーンが多いということは関係がない。

●依存になりやすいのは、早くからゲームに触れ始めた子、集団不適應の子、偏食がある子、愛情不足の子など。依存にならないためには、幼い時期の利用はさせない。早いうちから理由をよく話をし、免疫をつける。幼い頃のテレビ、ビデオ漬けにも注意。その家の一貫した方針を持つ。普段から、お金、物はみだりに与えない。小児科医学会は、2歳以下の子どもにはできるだけテレビ・ビデオの視聴を控えること、メディアとの接触時間の合計を1日2時間以内にするこ、ゲームは1日30分以内にするこ、子ども部屋にテレビ・ビデオ・パソコンなどを置かないことを提言している。

●家庭のルールとして ①1日30分より土日のみ2時間とする。②夜はしない ③自分の部屋ではしない ④外出したときはしない ⑤暴力的なもの、過激なものはダメ ⑥オンラインゲームや携帯ゲーム機に要注意 ⑦被害が出たときは中止する などを決めておく。また、ご褒美にゲームを与えること、一人暮らしを始めたときや何かでつまづいたときにネットやゲームにのめり込むので注意が必要。

●ネットゲームは麻薬と変わらない。中国で脳を調べて分かった。依存が大きいほど、脳の神経線維の統合性の低下が強まっている。



徳島県教職員の会 総会
日時：8月27日(土)13:30～16:00
場所：徳島生協 コープ住吉店
＊ぜひご参加ください。

●韓国では2011年以降時間のアクセス制限をもうけている。中国では児童が1日3時間した場合はクレジット(ゲームをする権利)を半分に、5時間だと0にする仕組み。オンラインゲームも本名で登録させ、住民登録番号も必要。企業も協力している。日本の対策は完全に遅れている。

●今、私たちがすべきことは次のようなことだ。◇インターネット・ゲーム依存症の実態を知ること。知らせること。◇子とていねいに話し合い、改善を図ること。◇子どもたちにインターネット・ゲームに変わる豊かな体験の場を作ること。→①自然体験 ②集団遊び ③読書・読み聞かせ・家読(うちどく)など。◇家庭社会においては豊かなコミュニケーションを図り、居場所作りに努める。→①だっこを忘れずに ②多忙、ストレスがあっても会話を忘れず、よりよい親子関係・人間関係を築く。◇企業・国に対して規制への実効ある措置を要請すること。→①諸外国の例に学ぶ ②保護者同士が連帯し、統一行動をすること ③学校とも連携する

最後に、藤田さんは「酒や麻薬を小さい子どもに与える大人はいない。インターネット・ゲームを容易に子どもに与えないで、子にとって何が大事か考え、行動していただければと願う」と結びました。

沖縄平和の旅レポート その2

6月23日は、沖縄慰霊の日でした。それにさきがけて、6月19日には、米軍属による女性遺体遺棄事件に抗議し、県民大会が開かれました。「怒りは限界を超えた」というプラカードが会場いっぱいに埋め尽くされたニュースを見ながら、ともにこぶしを握りました。

許せない！辺野古新基地計画

今ある危険な普天間基地の代わりに辺野古に移転するのだと、まことしやかに言われているけど、実は全く違う。新しい基地を作ろうとしているのです。負担軽減どころか、基地機能の強化、基地の半永久的固定化となり、しかも自衛隊も共用しようとしているらしい。これこそ集団的自衛権の行使へとつながっていくものではありませんか。安倍政権が、なぜ沖縄県民の意を無視して、辺野古新基地計画をゴリ押しするのが想像できます。

辺野古の海は深くて、自然豊かなとてもきれいな海です。ここに土砂をドサドサと投げ込もうとする気が知れない。必要な土砂は沖縄では当然足りなくて、本土から運ぶことになります。北海道から九州まで直線にダンプをびっしり並べたくらい必要だと言うことを聞くと、工事を請け負う大きなゼネコンがバックに見えてきます。

住民はいつの間にか反対派と賛成派に分断されていて、抗議活動を見張るため、現地の民間船に一日5万円のお金が払われているらしい。沖縄県と政府との訴訟が和解した後だったので、工事は中断されていたが、私たちが行った日にも数艘の漁船らしき船が浮かんでいました。なんとむなしい。これまでに、いったいいくらの税金を使ったのでしょうか。

辺野古の海辺のテント村で座り込みは4406日。「勝つ方法はあきらめないこと」という言葉。沖縄の人たちの人間の尊厳をかけた戦いの魂が胸に響きます。

国土の0.6%の沖縄に74%の基地がある。それなのにまだ、美しいサンゴ礁を埋め立てて、戦争のための基地を作ろうとするつもりなのか。絶対に許してはいけないと思いました。

